

## 2017年3月期第2四半期決算説明会 主な質疑応答

Q1：プロセス事業、ウェブ事業の将来の見通し

A1：プロセス事業の対象市場である鉄鋼市場は成熟しており大きな成長は見込めないが、海外においては当社の市場シェアはまだ低く、主に韓国、中国、北米等の市場では当社にとって大きな成長余地があると考えている。ウェブ事業は、海外よりもむしろ国内の軟包材や高機能フィルム関連等の成長分野に注力していく。

Q2：プロセス事業の海外競合に対する差別化ポイント

A2：競合とは異なるコンセプトに基づいた製品ラインアップを有しており、製品の差別化はできていると考えているので、販売・サービス網を整備することでシェア拡大できると考えている。

Q3：有機EL関連等で有望なコーター市場における制御装置の強み

A3：真空プロセス向けで当社のウェブ制御装置に強みがある。また、有機ELでは、ロール to ロールで作られる部材が増えるため、ロール to ロールの制御装置に強みを持つ当社にとって有利になってくる。

Q4：プロセス事業のセグメント利益について、上期が計画未達だったにも関わらず下期は当初計画水準を確保できると見込む理由

A4：上期は採算の低い案件がいくつかあり利益を押し下げた。元々収益性の高い事業であり、売上高が一定水準を超えれば利益も高まる構造にあるため、下期は売上高の計画値を達成できればセグメント利益の計画値も確保できると考えている。

Q5：今後の選果装置の差別化ポイント

A5：従来は性能面で差別化できていれば優位に働く市場であったが、現在は一定の性能がある前提で価格を競うことが多くなっている。当社としては性能向上を継続しつつコストダウンにも注力していく。

以上